

第3回 三郷町デジタル交通サービス導入推進協議会 議事録

1. 会議議事

■ 日時：2023年11月28日 13:00～15:00

■ 出席者：別紙参照

2. 議事録

(1) 協議会設置要綱の改正

- ・事務局から提示の協議会設置要綱改正（案）第9条（事務局）第2項の通り、奈良県の部署名変更に伴う事務局の変更について、各委員から了承を頂き、協議会設置要綱が改正された。

(2) 議事

■ 喜多会長（神戸大学 名誉教授）

- ・昨年度の2度の協議会では、デジタル交通サービスが町民の移動をよりよいものにできるかという非常に広い枠組みから議論し、サービス実装に向けて内容を絞り込んできたという経緯がある。
- ・本日の第3回協議会は、本年度の実証実験実施に関するより具体的な内容となるが、実証実験をうまくこなすということだけではなく、どんな技術であれば役に立ちそうか、町内の他地域に広げた時にはどうか、他の交通手段と併せて利用する時にどんな問題があり、どんな工夫ができるかといったことを俯瞰的に見て、様々な視点で発言いただきたい。

a) 令和5年度 三郷町デジタル交通サービス実証実験実施計画（案）

- ・全会一致で令和5年度 三郷町デジタル交通サービス実証実験実施計画（案）が承認された。

■ 今北（代理）委員（奈良県 県土マネジメント部 リニア推進・地域交通対策課 調整員）

- ・資料2の16頁の実験看板は歩道への設置を予定しているため、歩行者や自転車との万が一の接触事故等に備え、看板の周りにクッション材のカバーを設置する等の安全対策を想定している。
- ・資料2の11頁に示す緊急事態発生時の連絡・判断体系について、バスの故障や事故といった緊急時には実験は一旦休止させていただき予定であり、乗客は奈良交通（運行責任者）や長大（現場責任者）が目的地へ安全に輸送する。
- ・また、現場でバスを待っている参加者には三郷町（実証実験責任者）と長大で周知を行い、奈良県・三郷町のHP上でも速やかに周知を行う予定である。

■ 吉村オブザーバ（奈良県警察 西和警察署 交通課長）

- ・資料2の16頁に示されている周知看板④は駐車禁止の標識柱に設置予定とのことだが、規制内容への注意が低下する懸念があるため、別の設置箇所を検討いただきたい。

■ **木村委員（奈良交通株式会社 経営戦略室 先進技術推進グループ長）**

- ・実験周知チラシ（案）には予約等の情報は無いが、参加者予約は行わない認識でよいか。

→ **事務局**

- ・認識のとおりである。

■ **釈迦戸オブザーバ（国土交通省近畿運輸局 奈良運輸支局 首席運輸企画専門官）**

- ・JR 三郷駅及び FSS35 キャンパスにはバス停付近にそれぞれ受付を設置されるということであるが、立野南二丁目のバス停付近には設置しないのか。

→ **事務局**

- ・立野南二丁目のバス停については、歩道が狭いため受付は設置しない。立野南二丁目から乗車いただく場合の同意書やアンケートはバス車内のスタッフが対応する。

■ **喜多会長（神戸大学 名誉教授）**

- ・バス車内に係員がいるということ、バスを待つ乗客は事前に分からないのではないのか。

→ **事務局**

- ・チラシ裏面の乗り場を示している部分に、受付に関する案内を追記する。

■ **喜多会長（神戸大学 名誉教授）**

- ・最近永平寺町やサンフランシスコなど、自動運転に関する事故や不具合のニュースを目にするが、そのような事例を収集し、今回の実験に向けて同様の事故や不具合が生じないように考慮できているのか。また、今回提示された実験計画（案）に反映できているのか。

→ **事務局**

- ・永平寺町や大津市など、自動運転に関する事故の事例は収集し、その原因は把握している。
- ・将来的なレベル4での実装に向けて事故や不具合が起こりうる箇所については、本実験（レベル2）での自動運転システムのログ等を用いて手動介入箇所を調査し、今後明らかにしていきたいと考えている。

■ **中野委員（東京大学 教授）**

- ・大津市の実証実験中の事故は、車両が加速した際に横向きの座席に座っていた乗客が横に揺られて手をねん挫したという事例であり、本実験でもバスタイプの車両を用いるため気をつけるべきポイントかと思う。
- ・本実験の効果検証で事業性をみるということが書かれているが、目的地の FSS35 キャンパスにはどのような施設があるのか。
- ・また、立野南二丁目バス停は利用が見込めるような場所であるのか。

→ **事務局**

- ・FSS35 キャンパスでは現在サテライトオフィス（10号館）、スポーツパークが運営中である。また、檸檬会にて日本語学校（6号館）、就労支援の事業（5号館）を運営されており、体育館（3号館）も一般の方に開放している。そのほか奈良学園大学硬式野球部の部室（8号館）としても利用されている。

- ・立野南二丁目は旧路線で利用がみられたバス停であり、近隣住民の方に利用いただけるのではと考えている。

■ 喜多会長（神戸大学 名誉教授）

- ・自動運転の専門家である中野委員には、他地域の情報や検討内容について傾向的な話も含めて教えていただけるとありがたいと考えている。

■ 中野委員（東京大学 教授）

- ・当方が収集可能な情報については共有できればと思う。また、本実験で使用する自動運転バスを所有する埼玉工業大学からも同様の情報を収集できるとよい。

■ 吉村オブザーバ（奈良県警察 西和警察署 交通課長）

- ・一般的に、路線バスの事故発生時には警察が一時的な広報の窓口となる。今回の実証実験においては、事故発生時の一時的な広報の窓口を自治体とするか警察とするかを決めておいたほうがいいのではないかと。

→ 事務局

- ・一般的な路線バスの場合と同様に、事故発生直後は奈良県警察が窓口となって対応いただき、実証実験責任者の三郷町がそれを引き継ぐ形で対応できればと考えている。

■ 喜多会長（神戸大学 名誉教授）

- ・天候不良による実験の休止も考えられるが、その場合の連絡体制はどう考えているのか、また参加者には誰がどのようにお伝えするのか。

→ 事務局

- ・天候不良の場合は自動走行ではなく手動での運行を予定しており、自動から手動への切り替える旨を現場責任者から奈良県と三郷町に連絡する。
- ・実験の中止については、基本的にはHPで情報をご覧いただきくことを想定。手動運転への切替については受付等でも参加者が乗車いただく際に手動運転中であることをお伝えする。また、車内のモニタでも自動走行中か手動走行中かは確認できるようになっている。

■ 鈴木委員（社会福祉法人檸檬会 レイモンドヴィレッジ村長）

- ・実験や将来的な実装に向けて、檸檬会としても内部で情報を共有し理解を深めていきたいと考えている。
- ・将来的には施設利用者の障害を持った方にも利用いただきたいと考えており、サービスの利用に支援が必要な方をどこまで乗車可能とするのか、また檸檬会としてもサポートが必要なのかといったところは引き続き調整させていただきたい。

■ 喜多会長（神戸大学 名誉教授）

- ・本実験までにすべての検討を間に合わせるのは難しいと思うが、今後も引き続き議論していければと考えている。また、情報提供や施設へのチラシの掲出などご協力をお願いしたい。

b) 実証実験参加者、地域住民へのアンケート調査内容（案）

- ・全会一致で実証実験参加者、地域住民へのアンケート調査内容（案）が承認された。

■ 喜多会長（神戸大学 名誉教授）

- ・乗客アンケートの質問 11-1 は何を確認するための設問か。移動手段としてバスが必要なのか、一般的なバスと比較して自動運転バスの方がいいかなど、色んな意味に取れる設問になっているのではないか。

→ 事務局

- ・実証実験参加者に自動運転を受け入れていただけるかを確認するために設定した質問である。
- ・ご指摘の通り、回答者の受け取り方によって、意図と違う回答が得られてしまう可能性があるため、自動運転についてのイメージなど、質問の文言を再検討する。

■ 喜多会長（神戸大学 名誉教授）

- ・設問 12 についても、バスの運賃についてなのか自動運転の運賃なのかと 2 つのことを 1 つの設問で聞く内容になっている。回答者が明確に回答できるように設定できるとよい。
- ・この回答が得られたらこういう結論が導けるといったように関連づけて整理できているとよいのではないか。

■ 中野委員（東京大学 教授）

- ・バス運賃についての選択肢は 190 円がベースでほかはそれより高い設定となっているが、現状の路線バスより高くする前提なのだろうか。人件費が抑えられて安くなるのではと考える方もいるかもしれない。

→ 事務局

- ・安い金額を提示した場合には、多くの方が安い金額を選択するのではないかと想定しておりこのように設定している。自動運転であれば人件費が下がるというのもわかるが、過渡期には設備費などに多くの費用がかかることもあり、利用者がどのくらいの金額まで許容できるのか確認したいと考えている。運賃に関する設問は質問の文言も含めて事務局で再検討する。

以上